

平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応に基づく報告について

平成23年4月28日付け「平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について」（平成23・04・28原院第4号）の指示に基づき、以下の通り報告いたします。

東北地方太平洋沖地震の発生に伴って、大きな地殻変動が観測されたことを踏まえ、原子力発電所の耐震設計上考慮する必要がある断層に該当する可能性の検討に当たって必要な情報として、泊発電所周辺において、既往の調査に基づき活動性を否定している断層、変位地形、リニアメント等（以下、断層等という）に関する情報を整理した。

既往の調査に基づき耐震設計上考慮していない断層等を表1及び表2に示す。

泊発電所周辺は、この度の東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動の影響は小さく、これまでの泊発電所周辺の活断層評価への影響はないものと考えられる。

なお、今回の地震に伴う地震活動及び地殻変動についての新たな知見及び耐震安全性評価手法に関する国の動向を注視し、今後の評価に適切に反映していく。

以上